



多様な子ども達の発達支援と 保護者支援

一般社団法人 チャイルドフッド・ラボ 代表理事 藤原 里美

保護者支援も一緒
知識とスキルの
基礎にマインドがある

知識

スキル

マインド
→は保護者
保護者を主語考える

お母さんとの対談ビデオから 学びましょう



カウンセリング:傾聴

悩みや不安にアプローチ
気持ちの整理と安定を図る



傾聴：アクティブリスニング

- ・当事者の気持ちになって
 - ・興味・関心をもって聴く
 - ・アドバイスはしない
 - ・相手の悩みや不安を知ることが目的
 - ・わかってくれたという安心感を
-
- ・話す内容はどうしたら安心できるかを
考えて

コーチング：共に考える

目的や希望にそって
協働・伴走する



支援方法の共有と励まし

- ・ 子どもの通訳
- ・ どうしようの前になんでだろう
- ・ 支援方法を共に考える
- ・ PDCAサイクル
- ・ 無理のない方法のアップデート
- ・ 失敗から学ぶ ツールやスキルの提案
- ・ ロールモデル

子どもの行動を通訳する

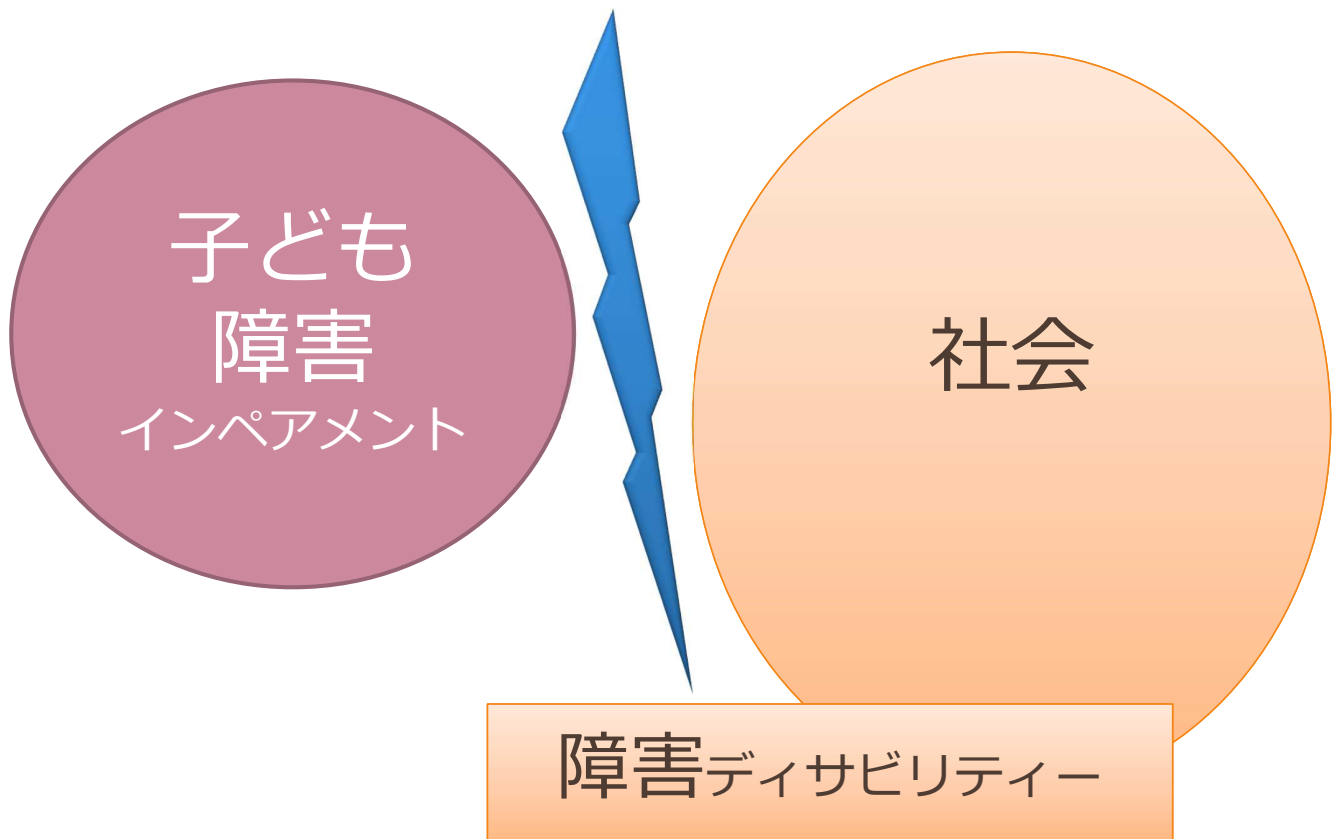
- ・ なぜ落ち着かないのか？
- ・ なぜこだわるのか？
- ・ なぜパニックになるのか？
- ・ なぜ生活習慣が身につかないのか？
- ・ 子どものなぜが変わると
見方が変わり味方になれる

その子らしさを活かすとは



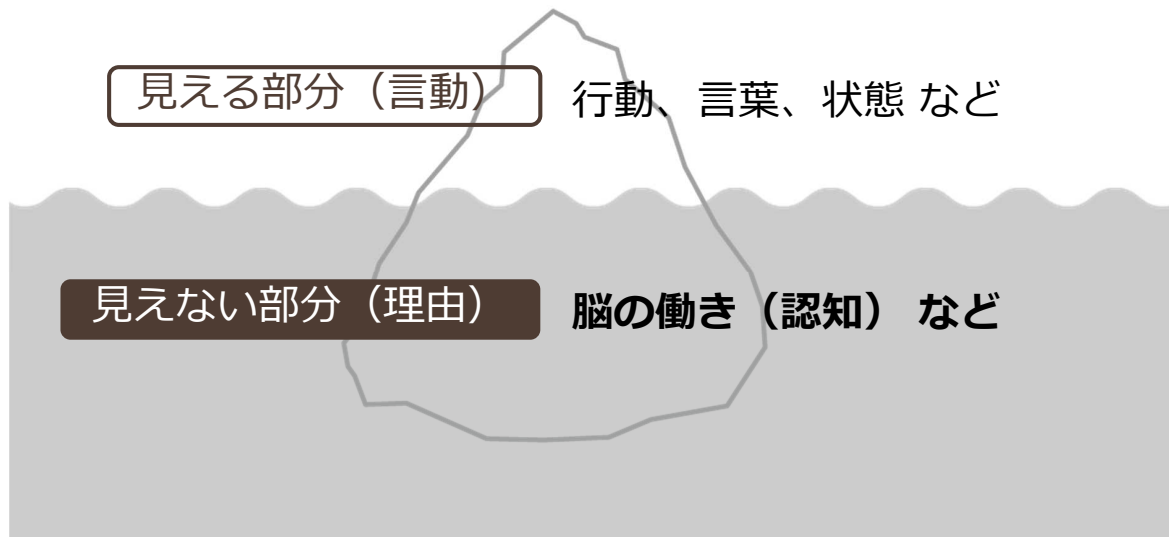
9

医療モデルと社会モデル



冰山モデルで考えよう

子どもの行動の冰山モデル



氷山の下に仮説をたてる 発達特性：認知を理解する

環境⇒感覚（入力）

⇒脳（整理整頓・理解）

⇒行動（実行）

感覚・記憶・思考



活発すぎる・不注意すぎる ADHD（注意欠如多動性障害）



A君（5歳児）

とても活発でよく動き回る。
怒って乱暴になったり、衝動的
に動いてけがをすることも。
ADHDの発達特性がある。

- 衝動性
- 多動
- 不注意



Bちゃん（4歳児）

おおらかで、いつも笑顔。
ぼーっとしがちで落し物が多
く、不注意でよくぶつかる。
ADHDの発達特性がある。

A君
衝動性・多動 優勢型

Bちゃん
不注意 優勢型

多動と不注意

感覚・覚醒レベルの視点から

氷山の下

覚醒レベル：脳も目覚めさせ方の調整が苦手
固有覚・前庭覚：体の内側に入る感覚の偏り

体の内側に感じる感覚：固有覚

関節の曲げ伸ばし、筋肉の動きを脳に伝える感覚

体の位置 運動の方向 速度の変化

物を持つ力加減を調整、姿勢を保つ筋力を感じとる

姿勢が保てない

バナナを握りつぶす

さわろうとして叩く

運動のぎこちなさ

体の内側に感じる感覚：前庭覚

身体をまっすぐに保ってくれる感覚 三半規管

身体の動きによって生じる変化を感じる

身体のバランスをとるのに必要な情報を脳に送る

見る（注視）機能を円滑に（手ぶれ補正）する

敏感：重力不安 動くのが嫌い

鈍感：いくら動いても満足しない・目が回らない

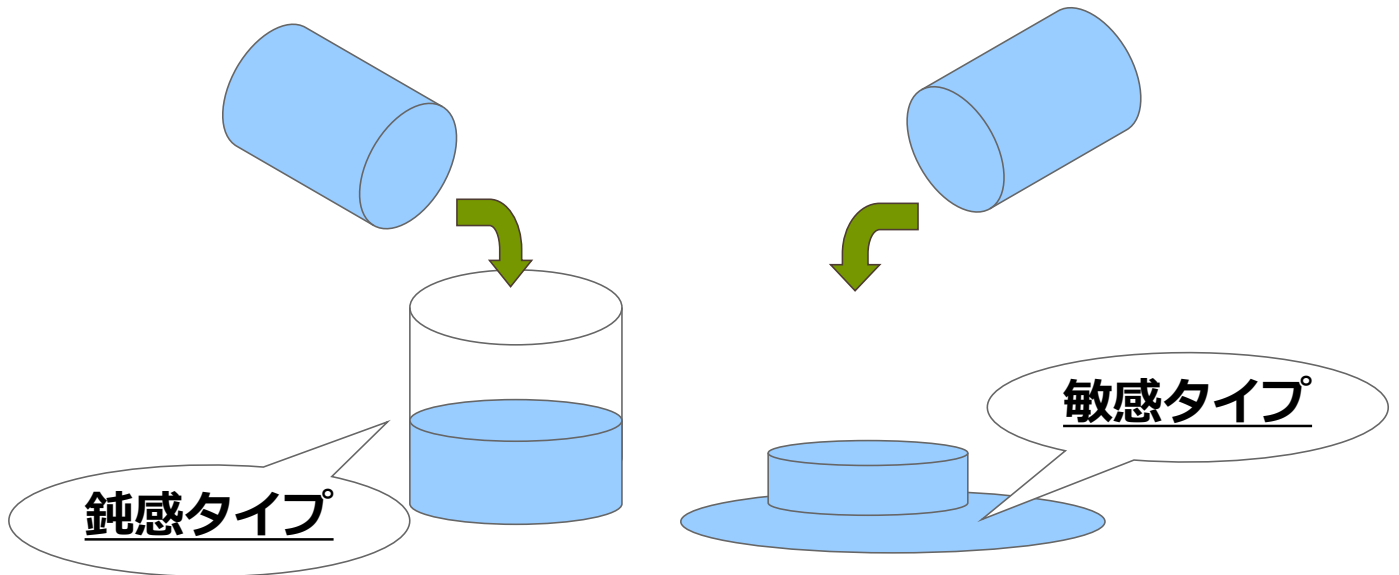
運動が苦手・目の使い方が下手：**不器用**

動かすにはいられない：落ち着きがない

感覚の調整って何??

感覚の感じ方は人それぞれ

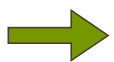
許容量が違う!!



感覚調整が難しいと 感覚欲求に注目

鈍感タイプ：多動 A君

刺激が入りにくい。より強い刺激がたくさん
必要!!



感覚を求める行動・感覚探求型

敏感タイプ：不注意 Bちゃん

少しの刺激をととても強く感じる



感覚を避ける行動・感覚防衛反応

ビデオ：まっすぐ立つのは難しい

感覚と覚醒レベルへの支援



思考の柔軟性 急な変更でパニック



年長の男の子

体育

・・・楽しみにしていた最後の
ゲームがなくなる



思考の柔軟性がうまく働かない・・・脳のタイプ
一番こだわり・ネガティブな気持ちを引きずる
失敗に弱い
自閉症スペクトラムの子どもの大きな特徴

共感⇒問題提起⇒提案

「怒ってしまう」「泣いてしまう」辛さに共感
何がこういう状況を作ったのか話し合う
問題を明らかにする
その上でどうすればよいのか提案する



まずは共感から、それだけでも子どもとの関係は変わる。関係性が大切

大好きなこの先生の話なら聞いてみよう。提案も受け入れてみようという心の動き。

あんしんBOX

怒っちゃうのはどんな時？

初めての活動

負けた時

失敗した時

急な変更がある時

強い言葉で指示



1 ・ 2 ・
3 ・ 4 ・
5 ・



まずは自分を知ることから

ラポール —— 心のつながり・信頼関係

あらゆるコミュニケーションの基本となり、
保護者支援においてもとても重要

人は、自分の基準・物差しで相手を理解し、
関係をつくっていく

ラポールを築くには、まず自分の基準・物
差しを理解することが必要

チェックしてみよう

- ☐ 大勢でわいわい騒ぐのはストレスを感じる
- ☐ あまり自己主張をしない方である
- ☐ もの静かですねと言われる
- ☐ 人見知りである
- ☐ 静かな場所でのんびりすることを好む
- ☐ 物事は丁寧にじっくり取り組みたいと思う
- ☐ 石橋をたたいて渡るタイプだと思う
- ☐ 頑固と言われる
- ☐ くよくよといつまでも悩むことが多い

- ☐ 1人より大勢で盛り上がって楽しみたい
- ☐ 自分の考えや気持ちを人に話すのが好き
- ☐ 人の話を聞くより、自分が話す方が好き
- ☐ 初めてのひととでもすぐに打ち解ける ことができる
- ☐ 遊園地などでアクティブにあそぶのが 楽しい
- ☐ 大勢で協力して作業したいと思う
- ☐ 当たってくださるタイプだと思う
- ☐ 周囲の意見に影響されやすい 嫌なことがあっても一晩寝れば 忘れられる

内向型と外向型

自己紹介をしてみましょう

内向型の〇〇です

私の欠点・苦手なところは〇〇です

日頃はこんな工夫をしています。

「私たちに手助けできることは何ですか」

〇〇をしてもらえるとうれしいです。

ラポールを築く コミュニケーションのコツ

1. ペーシング

声の調子や表情、呼吸、話す姿勢などを相手と合わせる。
言葉を使わないコミュニケーション（無意識のレベル）
を合わせることで、「わたしはあなたに似ている」と
いうメッセージを送る。

2. バックトラック

相手の話したキーワードを繰り返す（オウム返し）。
繰り返されたことで、自分が大切に考えていることが
理解された、承認されたと感じる。

面接を考える

保護者の状態を見立てる Aタイプ

- ☐発達障害についてインターネットや本などで学んでいる
- ☐保育者にほかの子との違いについて積極的に情報を共有できる
- ☐対応方法について相談できる・話し合える
- ☐育児の大変さがあっても子どもをおおらかに受け止めていると感じる
- ☐イライラすることが少ない
- ☐子供が落ち着かないときにも冷静に対処できる
- ☐子どもの良い行動についてほめることができる

Bタイプ

- ☐ほかの子と同じようにできないことを常に悩んでいる
- ☐ほかの子と同じようにできないことで、時に強く叱ってしまう
- ☐保育者が園での様子を話そうとすると、避けるような行動がみられる
- ☐とても困っていると言ったり、家では困っていないと言ったり、見解が一貫していない
- ☐イライラしている様子を感じるが多い
- ☐子どもの行動が落ち着かないとそわそわしたり、知らんぷりをしたりする。
- ☐子どもの良い行動に気付かないことが多い

Aタイプ

障害ということも含めて受け止めらると判断できる

専門機関への相談も進めてみてもよい

Bタイプ

不安が大きく、障害ということを受け止められないと考えられる。

専門機関への紹介は、まだ早いと判断できる

面談の準備

エピソードをまとめる

サンドイッチ方式を作る

できること

できないこと

〇〇したら〇〇できること

保護者への伝え方 全体指示が分かりにくい子

- ①大人と1対1で、短い言葉で伝えるとできますが
(できること)
- ②集団の中で話すと、理解が難しく不安が強くなります
(できないこと)
- ③言葉だけでなく、見てわかるように絵や文字で
説明を補足すると理解できます
(工夫や配慮すればできること)

保護者への伝え方 新しいことが苦手な子

- ①好きなことは集中して取り組むことができますが
(できること)
- ②やりたくないことは強く拒否してしまう
(できないこと)
- ③一度見学したり、大人が見本を繰り返し示すと
最後には取り組むことができる
(工夫や配慮すればできること)

面談の準備

アンケートをとる

面談の際の素材として使う

保護者に話してもらうための準備

家庭でのお子さんの様子を聞く内容

日頃どんなお話をしますか？

家庭での約束事がありますか？

どんな遊びが好きですか？ など

面談のコツ

Aタイプ

「配慮すればできること」を中心に確認
家庭での工夫を聞いて、承認
具体的な支援を見出すことで、協力して
取り組むことを実感してもらう

面談のコツ

Bタイプ

保護者にたくさん話してもらい、子ども
のとらえ方や子どもへの向き合い方を知
る。

子どもの状況については、感覚の配慮や
不器用さに対する支援についてを中心に
比較的受け取りやすい内容を共有する

大切なマインド

矢印を保護者に向ける

保護者の今を見極める

カウンセリングマインドかコーチングマインドか？常に揺れ動くことも理解する

発達の知識とスキルを身に着け実践し信頼をためておくことを忘れずに

まとめ

子どもの行動には必ず理由がある

うまくいっている場面にヒントがある

承認の5段階を意識してみよう

結果・プロセス・行動・意識・存在

自分らしさ・自己肯定感
を育む

Do ではなく Be

